



萩の台住宅地自治会が能登半島地震災害の義援金を寄附 6月4日(火)に寄贈式を行います

自治会内で家庭の不要品を集め、(一社)無限と協力して販売

萩の台住宅地自治会から、令和6年1月1日に発生した能登半島地震で被災された方々への義援金を、日本赤十字社を通じて被災地の方々へお送りするため、市にお預けいただくことになりましたので、6月4日に寄贈式を行います。

■寄贈式

寄附金額 金 256,028 円

出席者 萩の台住宅地自治会 会長 古家 敦志氏、相談役 山下 博史氏

一般社団法人 無限 代表理事 石田 慶子氏

生駒市長 小紫 雅史

日時 令和6年6月4日(火) 13:00～13:30

場所 生駒市役所4階 特別会議室

■義援金の概要

- ・萩の台住宅地自治会では、各家庭に呼びかけて自治会館で不要品を集め、フリマアプリやリサイクルショップなどで販売。その売り上げを義援金とされたものです。
- ・本市がリユース促進を目的に無償で配布した「メルカリエコボックス」を活用されたご家庭もあり、本取組のきっかけとなりました。
- ・出品に関しては、(一社)無限が取得した古物商許可を活かして、出品代行を行いました。作業は、障がいのある方々が担い、障がい者の雇用支援にも繋がっています。
- ・この義援金は、各家庭でこどもから大人まで、また障がい者の皆さんも含めて、地域の方々が一体となって、それぞれの役割を担って集められたものです。市として、そうした想いを含めてお預かりし、日本赤十字社を通じて被災地の方々へお送りします。

(参考)集まった不要品の種類と量

- ・衣服・食器・骨董品・玩具・アクセサリ等、ブランド品含め数多く集まりました。
- ・そのうち64点がフリマアプリやリサイクルショップ等で販売され、残りは自治会内のフリーマーケットで配布しました。

■ 萩の台住宅地の取組

国の推進する「脱炭素先行地域」に選出された生駒市における住宅都市モデル地域。市の目指す複合型コミュニティの活性化のため、自治会館を中心に地域の人々が交流できるコミュニティステーション「こみすて」を展開し、ゴミの資源化など様々な取組を行っておられます。

■ (一社) 無限の活動

生駒市に拠点を構え、「障害者の当事者や支援者から新しい価値観を創出」をキーワードに、「放課後等児童デイサービス運営」「就労継続支援 B 型事業所運営」「LOOP」「介護者育成講座」「meli-melo deli」「相談支援事業」など幅広い活動を行っておられます。リサイクル事業を行うため、古物商許可を取得し、自治会の出品代行を担うなど、地域の活性化に取り組まれています。

この件に関する報道機関からの問い合わせ

生駒市 SDGs 推進課（課長 木口） ☎0743-74-1111（内線 2100）